

第8回専門部会 議事録

平成28年5月9日（月）18時30分～
登別市総合福祉センターしんた21 多目的ホール

- ◆出席委員 松山 哲男 委員
 斉藤 正史 委員
 鈴木 高士 委員
 近井 一夫 委員
 小幡 功 委員
 藤田 康 委員
 吉元 美穂 委員
 垣内 登紀子 委員
 千葉 洋子 委員
 米田 登美子 委員
 二瓶 秀幸 委員
 井上 昭人 委員
 横内 智二 委員
計12名

- ◆事務局：商工労政グループ 大越 主査
 林倉 担当員
 能登 担当員

- ◆議題：（1）これまでの3部会の協議内容を念頭に置き、「大貝レポート」の「④登別市の地域経済、中小企業振興策の方向性」についての意見交換と確認を目的とする協議
- （2）登別市中小企業地域経済振興策報告書における最終目標についての協議

【要旨】

項目	発言者	内容
<p>(1)「大貝レポート」の「④登別市の地域経済、中小企業振興策の方向性」についての意見交換と確認を目的とする協議</p>	<p>委員</p>	<p>ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。</p> <p>本協議会は、後3回程度で最終報告書をまとめていきたいと思っております。6月までお忙しいとは思いますがよろしくお願いいたします。</p> <p>お手元の資料の2枚目を見ていただければと思います。今日の会議の目的は、北海学園大学大貝准教授に依頼しておりました、登別市内各種データの分析、またヒアリング調査等を踏まえた大貝レポートが報告されました、それを踏まえて登別市中小企業地域経済振興にかかるあり方の再考を進めていきたいと思っております。</p> <p>今日の会議の流れと論点としましては、これまでの3部会の協議内容を念頭において、大貝レポートのまとめ「登別市地域経済、中小企業振興策の方向性」について意見交換なり確認をしたいと思っております。2点目は最終報告書における最終目標について意見をお伺いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>まず1点目の大貝レポートの関係についてであります、資料の4枚目に登別市地域経済、中小企業振興策の方向性について大貝先生にまとめていただいておりますが、既に報告書について配布させていただいておりますが、お忙しい状況の中で目を通していない方もいるかと思っておりますので、それぞれの項目を皆さんにお読みいただき感想をいただき、意見交換をして大貝レポートの方向性について、今まで3部会で協議した内容を念頭におきながら進めていきたいと思っております。</p> <p>読んでいただく前に6枚目から8枚目に地域、人、企業それぞれ部会のこれまで話された内容についての資料でございます。</p> <p>まず4枚目の大貝レポートの方向性について進めていきたいと思っております。</p>

		<p>最初に（１）人材確保と人材育成に向けた具体的施策の検討をお読みいただき、ご感想をいただき、そして他の皆様からもご感想をいただきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
	委員	<p>インバウンドで非常に温泉地区の人手が確保できていない。東北の震災の関係でも建築業者が東北に流れていて人手が不足している。しかし若い人は職がないと言っている。職を選ばなければ周りに就職先はたくさんあると思うが、魅力のある職場がないのかなと、若い人はＩＴやアニメーション等日本工学院がやっているような所を魅力として感じているのかと思いますけども、そこに対する市内企業の就職先がないと感じております。</p> <p>議会でも色々な提案をさせていただいております。日本工学院の技術を活用できるような環境作りをしたほうがいいと思っております。ＩＴ関係で起業を促すなど、起業が難しければ企業誘致を行う等の取り組みが必要かと思っております。</p> <p>託児所の関係も出ておりますけれども、登別市は子どもを預ける環境が整っているのではないかと感じております。</p> <p>若者に対して魅力のある職の開拓が大事かなと思っております。</p>
	委員	<p>感想を述べていただきましたが、ご意見ございますか。</p> <p>若者にとって魅力のある仕事は何かという部分ですが、例えば、乳牛を飼っている仕事で大変な作業だと思っておりますが、乳牛を飼っていることの魅力はありますでしょうか。</p>
	委員	<p>生き物を飼うのが好きでなければ勤まらないし、楽な仕事ではないと思っております。</p>
	委員	<p>知り合いの軽種馬の生産者から聞いた話ですが、去年から２０代の若者が働きたいと応募があり雇用し、楽しく働いていると聞いてます。</p> <p>やはりただ単に人手が足りないというのではなく、この仕事にはこういう魅力があるとＰＲする</p>

		<p>ことが必要だと思います。他に意見はございますか。</p>
	委員	<p>専門職でいう人材確保といたしますか、一つの事例ですが、登別青領高校では毎年就職する生徒が30人くらいいますが、企業が求める人材を育成するため4月から商業簿記と情報処理のコースを設定し、人材育成を行っています。</p>
	委員	<p>人材育成に向けた具体的施策の検討についてはこれで終わりたいと思います。</p> <p>次に産業福祉的視点を持つ具体的振興策の検討について鈴木委員お願いします。</p>
	委員	<p>私どもの会社でも定年を65歳まで延長しておりますが、そろそろ70歳まで延長を検討しています。人材の確保が難しいことと人材育成・技術の伝承がなかなか難しいところがありまして、やりがいを見出すためにどういった方法がいいのか課題があります、また働くことによって健康が維持されるのかなと思います。</p>
	委員	<p>この項目についてご意見、ご感想ございますか</p> <p>産業福祉的視点について、国の方でも平成30年度まで地域包括ケアシステムの構築が求められています、その中で日本版CCRC、大都市から地方に移住させようという政策ですが、登別市における地域包括ケアシステムの構築を考えていく中で、介護員の育成、看護師の育成だとかいろんな分野に広がっていくのかなと、高齢者あるいは福祉的な視点を持つ産業を考えていかなければいけないと感じております。</p> <p>他に意見はございますか、なければ次に地域内で経済主体間の連携や産業連関を構築する、具体的施策の検討についてお願いします。</p>
	委員	<p>登別市においては、観光が基幹産業で、観光とそれ以外の産業を結びつけることが課題とっております。</p> <p>取り組みをご紹介させていただきますと、例えば登別ブランド推進事業の登別閻魔やきそばでは、</p>

		飲食店に統一的なメニューを提供することで市民のみならず、観光客を温泉街以外の飲食店に足を運んでいただくような仕組み作りを行っています。
	委員	連携や産業関連の仕組みについては、今までも協議会として課題として持っている部分で、それについてどう取り組んでいくか具体策が必要になります。4番目の温泉地の魅力作りの必要性、観光を軸とした施策の検討ということも結びつきが深いと思います。それでは委員お願いします。
	委員	登別で観光と言えば温泉だと思います。やはりそこを軸としてどう街に観光客を流すのかが大きな問題だと思います。温泉プラス魅力が必要になると思いますが、登別で今後どのようなアピールをしていくかを考えると、なかなか難しいですが、例えば道の駅を作るにしても魅力がある施設を作らなければならないし、コンセプトをどのようにしていくかが問題となると思います。
	委員	<p>大貝レポートにおいては、長期滞在を促せる環境が十分ではないとのことで、この辺について協議会でも登別、幌別、鷺別地区を周遊できるようなスポットを作っていかなければならないと協議がありました。登別温泉の観光産業を振興していく上で周辺地域において滞在を楽しめる環境づくりが大切になると思います。</p> <p>道の駅の話がありましたけれども、萩市に道の駅がありまして、全国的に成功している例として注目されています。</p> <p>また宇和島市の道の駅を視察してきましたが、地元のお客さんが70%で、売り上げが年間11億円あり、平成21年にオープンして25年に売上が減少した中で、問題課題の整理を行い、改善策を実行して平成28年度は前年度比1億円の増収を目指しています。やり方や考え方次第で成功すると思います。</p> <p>他に意見はございますか。</p>

	委員	全国的に人口減少が進んでいますが、登別市は西胆振の中で一番未来があると思っています。観光客が年間300万人以上来るわけですから、その方たちも魅力があるから来るわけですから、その中でそれをどう活用していくか、温泉だけではなくて街に来てもらいお金を落としてもらおう仕組みを考えていかなければならないと思います。また地元の方にも来ていただくような場所を作らなければなりません。
	委員	300万人以上の観光客は大切な資源だと思います。外貨稼ぎをどうやっていくかという視点が大事だという印象を受けました。 その他ご意見ございますか。
	委員	域内循環や外貨稼ぎの話がありましたが、伊達の道の駅も近隣住民から収益を上げており、地元で愛されることが成功につながっていると思います。
	委員	その他ご意見ございますか。 それでは次に施策担当者への情報集約、市内事業者との情報共有の具体的施策の検討についてお願いします。
	委員	情報を束ねる役割は市役所だと思っています。情報を収集するとか、情報の更新はしていただきたいと思っています。また市内企業同士のマッチングにつながるところとして、登別市は分離発注していますけれども、企業が他社と接触することにより今まで気が付かなかったことが気づいたなどの声を聴いております。
	委員	何かありますでしょうか
	委員	市内企業のニーズを把握し施策に生かしたいと常日頃思っており、それが分からなければ補助金を用意することや、企業さんを支援することが難しいと思っています。市が企業さんを訪問する際に事前に連絡を取ってお話しをお聞きすることがありますが、私どもがかしこまって訪問してもぎくばらんなお話しが聞けないと感じることがあ

		ります。企業さんのニーズを聞くのは難しいと感じる部分があります。
	委員	企業と行政の関係というよりも、人間関係の問題だと思います。対企業の関係というか人間関係を築くことが大切だと思います。
	委員	市民として街を作っている人の連携を見ると、イベント等で企業同士の連携を見る機会がありますが、この協議会の場がなかったら登別の良さを感じられなかったので、そういう交流を行い、色々な取り組みを繰り返している人達の活躍できる場所があれば、私も参加したいと思います。
(2) 登別市中小企業地域経済振興策報告書における最終目標についての協議	委員	<p>この辺についてご意見ご感想ございますか。協議会でも3部会で協議した事業について取り組んでいくことになっていきますが、事業主体をどうするのか検討していかなければならないと、そういう部分も考えていかなければならないと思います。いずれにしてもこの協議会も報告書を提出した後は解散となりますので、新たな会を設立する必要があります。この辺については次回協議させていただきたいと思います。例えば企業部会では地元愛会議を作ろうという話があり、場所もとりあえずアーニスの中でやろうかという話がありました。いずれにしても6月中に報告書を提出したいと思いますので、次回の3部会合同で行う会議で協議したいと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>今日の論点の2点目の登別市地域経済協議会事業の最終目標についてですが、今まで中小企業の抱えている問題課題や原因、解決方法について3部会で協議し、見えてきている状況でございます。報告書に記載するのは各部会で協議された事項について提出することが最終目標ではないと思います。今回提出する報告書で取り組むべき事業について期間的には3年間位を目途でやるべきだと考えた場合、最終目標としてはどうすればよいのかということですが、年間300数十万人の観光客</p>

		<p>に温泉地区のみならず他の地区にも来てもらいお金を落としてもらう、それにより地域経済を振興していくと大事な考えではなからうかと思いません。そして域内での循環する経済システムも考えなければならないと思いません。今言ったことも加えて最終報告書を作成したいと思っていますが、皆さんのご意見はございますか。</p> <p>例えば6月に報告書を提出します、そして報告書の中には取り組むべき事業について出てくると思いますが、5年後、10年後では遅いのではないかと、3年くらいで達成する必要があると思いませんが、そのあたりについてご意見ございますか。</p>
	委員	<p>白老にも道の駅ができる話がありますので、3年位でやらないと意味がないと思いません。</p>
	委員	<p>大貝レポートでも記載されていますが、観光客がどこに行くのかにつきると思いません、温泉だけではなく、各地区に回ってもらい長い時間滞在してもらおうと、それによりお金が落ちるということ考えた場合に3年位を目途にした報告書にする必要があると思っています。</p> <p>二瓶委員はどう思いますか。</p>
	委員	<p>会社では、必ず長期、中期、短期で事業計画を行います、3年位なら中期計画だと思います。</p>
	委員	<p>これについてご意見ございますか。</p> <p>3年で中期という話がございましたが、3年位の計画でよろしいでしょうか。</p>
	委員	<p>短期間にできることや3年位でできることを具体的に示した方がよいかと思いません。</p>
	委員	<p>次回16日の協議事項として各部会の取り組み事項の最終確認と事業主体の協議及び新たな組織についてですが、概要について一覧表にして各部会の3年間で取り組む事項についてたたき台として提供し皆さんのご意見を聞いてまとめたいと思いません。</p> <p>他に何かございますか。</p>
	委員	<p>部会ごとに提案するということですが、例えばビ</p>

		<p>ジョンの将来展望を掲げることが大切かなど、部会ごとのそれを実行していくことで将来のビジョンを具現化していくことじゃないかと、これがまとめるうえで大切だと思います。</p>
	委員	<p>その通りだと思います。今3つの部会の取り組みについて共通する項目がありますので整理する必要があると思います。</p>
	委員	<p>私としてのイメージがありまして、長野県の松本市長の講演を聞いたことがありまして、それまで言われていた平均寿命から健康寿命延伸都市宣言を掲げて、健康寿命を延ばすことということは、街の全ての産業につながる施策という形を掲げて街づくりをしていると、何かをきちっと掲げてビジョンを出すことで街の施策が繋がっていき実現していくと、部分的に出たものを組み立てて果たしてそういう形ができるかと思っています。</p>
	委員	<p>最終目標というか柱が何になるかということだと思います。最終目標は外貨稼ぎがあり、域内循環を考えていかなければならないと、その辺りの構築が重要かと思っています。それに3部会で話し合われたものを入れていけばいいのではないのでしょうか。</p>
	委員	<p>登別だけではなく、室蘭や伊達を含めた広域連携の中で登別は何ができるのかを考えた方がいいと思います。また域内循環は登別市だけでは難しいと思うので、広域的な視点で考えた方がいいと思います。</p>
	委員	<p>これからの事を考えたときに、今までの協議会の中でも登別だけでは限界だという話は出てきます、広域連携の視点は大事だと思います。</p>
	委員	<p>年間300万人以上の観光客入込数がありますが、白老で象徴空間を建設して100万人以上観光客が来る見込ですが、じゃあ新たに100万人が登別の観光客として増えるのかといえばそうではないと思います、広域連携しないわけにはいかないと思います。例えば道の駅で売る資源につい</p>

		でも具体的に提言に入れなければならないと思います、最終的に出てきたものを繋げるのではなく、掲げたビジョンについてまとめていかなければならないと思います。
	委員	各部会でコンセプトに基づいて協議したものについて肉付けしていくという形でまとめたいと思います。 それでは時間になりましたので本日は終了します、次回は5月16日（月）に開催しますのでよろしくをお願いします。お疲れ様でした。